

1-1 東京一極集中と山手線

現在、東京一極集中が問題となっている。東京はもともと、政治、経済の全国中心であり、加えて、学術、文化などの面で巨大な機能を集積している。最近はまだ、世界都市東京と呼ばれ、ニューヨーク、ロンドンなどと並び、国際金融センター化して日本の中で群を抜く都市になっている。人間も経済も情報も、東京に集中し、全国的にみて、大阪や名古屋も含めて地方は都市活動の停滞が懸念されている。

東京一極集中の問題は全国土の均衡ある発展に有害だという点がまずあげられこれに答えが求められている。更に東京自体の問題として、ここに現象している巨大集積—人口や経済や都市機能の高密度、巨大集積のセキュリティをどう確保すべきか、あるいは、東京60km圏に3000万人という驚異的人口が住み働いている現実の中で起こっている様々な問題、土地高騰、住宅問題、通勤問題などなど、過密問題へどう対処すべきかの答えが求められている。

東京一極集中の弊害を国土的に解消する方策として、東京に集中している機能の全国土への分散、特に首都機能の分散、いわゆる展都や分都が提案され、それが現政府により実施されようとしている。

最近はまだ、首都機能を前途移転されるべしという遷都論までが盛んに議論されている。

東京自体の都市問題とは、やはり過密問題であろう。東京60km圏の都市構造が、また東京都区部への一極集中構造なのである。東京都区部の夜間人口 840万（60km圏）の中でも、東京都区部（15km圏）に都市の中心的諸機能が集中的に集積し、巨大な就労の場、経済的活動の場、都市活動の場となっているのである。

東京圏の今後の都市計画としては東京都区部に集中集積している機能を東京30～50km圏に拠点を定めて分散させること、大宮・浦和、立川・八王子、千葉、筑波などの拠点に重点的に分散集積させることが重要であり、合わせて、都市構造を一極集中の放射状から環状に、核都市を連合させる様に横つなぎに改める必要がある。

首都改造計画（国土庁策定）はその方向の計画であり、基本的には東京都区部（16km圏）に集中的に現われている過密現象、混み合いを60kmに拡大して緩和しようということである。都市活動の密度の平準化といっても良いであろう。

巨大都市東京の物的、社会的セキュリティ（安全性）の確保もこの一極集中構造の是正の中でもとめられるべきものであろう。

さて、東京都区部自体の問題であるが、ここでもまた一極集中構造がみられる。東京丸の内、霞が関など、政治を中心的経済機能が集中している地域に人口、通勤人口が集中しているのである。

東京都自体の都市計画としても、多心型都市構造への展開が計画目標として掲げられている。その端的な例が新宿への都庁移転であり、新しい副都心、副々都心の育成をめざす東京都の計画と計画の実施である。

新宿や副都心、あるいは副々都心とは、端的には、交通の結節点である。しかし、交通の結節点の規模、結節の数によって「心」の大きさが決まってしまう面がある。

東京23区の中には鉄軌道（JR、その他の私鉄、地下鉄）自動車路が錯綜しているが、これらはいくつかの点、基本的には東京駅、新宿駅、渋谷駅、池袋駅、上野駅であり、それを包含して、都心や副都心が出来ている。そしてまた、これらの主要駅はJR、山手線で環状になっているのである。

逆にいえば「山手線」という環状の鉄道軌道によって東京の交通路は秩序づけられ、山手線の建設の経過に従って、都心が出来、副都心が出現したのである。東京市街地の発達には山手線というサークル鉄道によるものであり、この楕円型線状の一定間隔の点から郊外に延びる私鉄の発達と軸を一にしたものである。

東京区部への人口集中を、絶えず円環状に回転させることによってさばくというこの交通システムは、まことに巧妙な仕掛けである。極端なことをいえば、東京都区部も東京圏（60km圏）も、さらには国土の東京集中もこの環状山手線に支えられている。

今回、「東京都区部にある駅及び駅前広場の混み合いについて研究」するに当たり、東京一極集中も原理的に成り立たせている「山手線」に着目し、この円環線上にある駅と駅前広場を取り上げ、研究の具体的対象としたのは、以上の理由による。

山手線の各駅や駅前広場に東京問題が典型的に現われ、今後の東京問題解決の鍵があるとも考えられたからである。

現在山手線は、その沿線地域をふくめ再開発の対象として注目を集めはじめており、今後大きくその姿を変える可能性をもっている。その意味から山手線の今日を記録にとどめること自体、重要な意味をもつものと考えられる。そこで、今

回の研究では、山手線の全駅を調査対象として、駅及び駅前広場の現状を調査、把握しようと試みた。

山手線の諸駅は実に様々な顔をもち、その駅前広場もそれぞれ異なった性質をそなえている。これらは東京の「心」を構成する交通の結節点として重要な働きをしていると同時に町の表情を如実に映しだしている。これらの駅と広場は高密、過密な東京生活の商店であり、今後、これらの空間の動向が、結果的に巨大都市東京の正確をも示すことになるだろう。

山手線諸駅はまぎれもなく東京の顔なのである。